

## 平成 27 年度 高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウム 講演要旨

日時：平成 28 年 3 月 16 日（水）

会場：高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパス 研究本館 小林ホール

### 状況報告 1

座長：大越隆夫（KEK）

#### 13:10～13:35 ユニバーサル段階の大学における技術職員の役割と機会

長谷川 紀幸（横浜国立大学 理工学部数物電子情報系学科）

日本における高等教育への進学率が 50%を超え、マーチン・トロウが提唱した大学のユニバーサル段階に入ったとともに、日本では進学者数に比して大学等の募集定員が上回る、いわゆる「大学全入時代」にも突入している。ユニバーサル段階の大学では、入学者の「多様性」の広がりによって、従来では、必要のなかった様々な新しい課題が発生しており、とりわけ、教育分野においては顕著となっているのみならず、喫緊の課題となっている。実験・実習技術研究会において発表数が増大しているだけでなく、対象分野も広がってきていることから明らかなように、近年、技術職員にとっても関りが深い課題となっているが、ユニバーサル段階の大学では従来の技術職員がかかわってきた実験・実習分野だけではなく、広く大学の教育にかかわる機会も非常に多くなってきている。

本報告ではそのようなユニバーサル段階の大学における技術職員が果たすことができる新しい役割と機会について報告するとともに、新しい役割に対応する能力開発についても報告する。

#### 13:35～14:00 能力や実績に裏打ちされた存在感ある技術職員になるために

##### － 様々な役割と大きな方向性の理解、機会の有効活用 －

東嶺 孝一（北陸先端科学技術大学院大学 産学連携本部技術サービス部）

北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）は、学部のない、独自のキャンパスと教育研究組織を持つ大学としては、我が国で最初の国立大学院大学である。平成 7 年に発足した技術室は、平成 17 年に技術サービス部に改称されて事務局から独立した。以降、特にマテリアル系技術職員は、企業の試料を有償で測定する JAIST 独自の制度や、当時のナノテクノロジーネットワーク事業、その後のナノテクノロジープラットフォーム事業において、企業や他大学等の研究に貢献してきた。また、こうした事業の公開講座の講師を務めて企業の技術者と意見交換をしたり、研修に参加して専門家から直接指導を受けたりすることで、スキルアップにもつながっている。他方、大学のフェスティバル等、地域の一般の方々と親睦を図る機会での貢献も求められ、一風変わったアミューズメント企画を実施したり、もちろん学内での依頼測定や設備の維持管理、学生へ講習をしたりする業務もある。こうしたなか、平成 26 年に技術サービス部は産学連携本部に再編された。例えば JAIST が主催する産学官金連携マッチングイベントへ技術サービス部として参加し、各企業の現況の

調査や、提供している各種分析の提案を行うなど、今後さらなる産業界への貢献が求められている。

#### 14:00～14:25 技術職員のプレゼンスの向上

山野井 豊（高エネルギー加速器研究機構）

本機構では技術部を2004年4月に改組してから12年目を迎える。昨年は改組後の制度について振り返ると同時にこれからのあり方をワーキンググループで議論してきた。改組によって技術職員一人ひとりが見えなくなるとの意見があったことを踏まえてどのようなことを行ってきたか、また今後何を進めるべきかWGの議論を通して報告する。

## 状況報告 2

座長：平 雅文（KEK）

#### 14:40～15:05 東北大学における職群と職群研修について

（研修＝スキルアップ＝プレゼンスの向上という視点で）

猪狩 佳幸（東北大学 多元物質科学研究所 技術室）

東北大学の技術職員は、総合技術部という全学組織に所属し、同時に担当する技術業務が近いもの同士を集めた職群に所属している。職群は、「加工・開発群」「電子回路・測定・実験群」「分析・評価・観測群」「生物・生命科学群」「情報・ネットワーク群」「安全・保守管理群」の6つがあり、それぞれ、所属する技術職員のスキルアップを目的とした研修を企画・実施している。今年度、実施されたこの職群研修について紹介する。

#### 15:05～15:30 技術支援センター発足から4年間での研修体制整備について

渡邊 高子（長岡技術科学大学 技術支援センター）

長岡技術科学大学 技術支援センターでは、技術職員の存在感（プレゼンス）を向上するため、仕事の質を向上する取り組み、仕事の幅を広げる取り組み、研究費獲得のための取り組み、プレゼン技術向上の取り組みという大きく分けて4つの取り組みを行なっている。今回の報告では、本学が実践しているこれらの具体的な内容を報告するとともに、技術職員組織の大学内での位置づけについて報告する。

#### 15:30～15:55 技術研究会の変遷と役割

鈴木 光一（分子科学研究所）

全国的な規模で展開している「技術研究会」もスタートしてから40年経過した。この研究会の発足した経緯や現在までの軌跡を振り返り、その「技術研究会」が技術職員にもたらした効果や今後のあり方について考察してみる。